

西成連区地域づくり協議会だより

通 巻

第7号

発行日：平成二〇年一〇月一日

発行者：西成連区地域づくり協議会

一宮市小赤見字郷浦五三

（一宮市西成出張所内）

電話：28—9002

6部会が審議内容を中間報告

合同会議で事業内容の絞込み開始

西成連区地域づくり協議会の執行部と、6部会の部会長による合同会議を、10月1日に開催する。

この合同会議では、新年度の事業計画の方向付けを探るため、6部会長の参画を得て、今まで開催してきた各部会の審議内容や経緯を報告いただく予定。

理事会は、6部会の報告を受け、新年度事業に反映をさせるため、関連諸団体との調整を重ね、今年中を目途に結論を導き出したい意向。

地域づくりの具体策を模索中

地域を生かす事業を各部会で企画・立案

地域住民の自主的な活動を目指す、「西成連区地域づくり協議会」が、各種構成団体のご協力を得て誕生して以来、ただちに各部会が開催され、西成地域の特徴を生かすための審議が重ねられている。

一宮市は従来から連区という優れた仕組みで運営されており、平成の合併で23連区となったなかでの「西成連区地域づくり協議会」は第1号。そのため西成のこの協議会は、全ての他連区から注目をされている。自由な発想で地域を生かす事業の企画立案に、6部会が現状を見極めつつ、意欲的に取り組んでいます。

各部会での審議概要は、次のとおり。

●地域振興・保全部会（8月26日開催）

西成連区には、地域ごとに各種団体が多数あるが、総じて青年層の参加が少ないように思う。これら個々の団体が、相互にコミュニケーションを図る体制づくりが必要ではないか。一方、伝統的な文化財や催事のほか、名所旧跡や神社仏閣も多数あり、それを支える保存会などの組織も有る。西成連区の財産は未永く保存したい。

西成連区の特徴を生かし、アピールすることにより、西成連区の地域振興につなげる方策を導き出したい。

■交通・防犯・防災部会（9月1日開催）

西成連区の5小学校（瀬部・西成・西成東・赤見・浅野小学校）の交通安全マップを参考に、交通の危険箇所や過去の不審者出没箇所について情報交換した。付随して、信号機の設置や横断歩道の表示希望箇所のほか、増加傾向にある深夜徘徊、青少年犯罪についても話し合った。

また、今年のゲリラ豪雨時などによる水害や、台風などの防災対策についても話題となった。

■広報部会（9月16日開催）

この紙媒体による「西成連区地域づくり協議会だより」にあわせ、インターネットによる情報提供をするため、早急にホームページを立ち上げ、反応を確かめたい。

会議の中では、ホームページへのアクセス件数の予測や、現状のA4版両面刷りの紙媒体に対する改良の余地（文字が小さい、カットの挿入、目に付く紙面づくりなど）もあるが、当分の間は並行して刊行することになった。

赤い羽根共同募金運動 10月1日～12月31日

（昭和22年11月22日に「国民助け合い共同募金運動」として開始された。

「共同募金」は、寄付金を公衆から募集することで、スイスの山村の牧師が路傍に木箱を置き、富者はお金を入れ貧者はこれを引き出すようにしたのが起源とのこと。